

which connate about 1/5 of the whole length from the base.

\* \* \* \*

British Museum の御好意で同博物館所蔵のヒマラヤ産ベンケイソウ属の標本を検討したので、その結果をも合せてこのノートに記してゆくことにした。

(3) *Sedum mirabile* H. Ohba (新種) ブータンの Sinchu 峠で S. Bower Lyon によって採集されたイワベンケイ亜属の新種で、全体の形などはチベット産の *Sedum Hobsonii* Prain ex R.-Hamet や中国四川省康定附近で発見された *S. brevipeiolatum* Fröd. に多少似ている。しかし、雄蕊が明らかに側着である点はきわめて特異である。少なくとも既知のヒマラヤ産の全種類、イワベンケイ亜属の全種類はすべて底着雄蕊であって、側着雄蕊をもつ種類としては本種が最初の発見であると思われる。

(4) *Sedum Marnieri* R.-Hamet ex H. Ohba (新種) ヒマラヤ地方特産の *Sedum primuloides* 群の一種で、ロゼット葉、莖葉ともに無柄であること、花卉が基部から全長の程度合着すること、花序が多花である点などで既知のいずれの種類とも明らかに異なる。中部及び西部ネパールで採集され、故 R.-Hamet によって上記新名が用意されたが正式に発表されなかったのが惜まれる。

### ○ヤマオダマキの一品種 (浅野一男) Kazuo ASANO: A new form of *Aquilegia buergeriana*

日本産 *Aquilegia* 属は子房および袋果の毛の有無により、*A. buergeriana* と *A. flavellata* とに分けられ、前者は有毛でヤマオダマキ、オオヤマオダマキ、後者は無毛でオダマキ、ミヤマオダマキが数えられている。いずれも花卉は円頭で長い距をもっている。稀に距が発達しないものがあり、現在次の3品種が知られている。

1. マルザキヤマオダマキ *Aquilegia buergeriana* Sieb. et Zucc. forma *ecalcarata* (Makino) Kitamura, in Acta Phytotax. Geobot. 15: 5 (1953). 産地: 下野国日光, 陸中国気仙郡綾織村。

2. ホウカゾウ *Aquilegia flavellata* Sieb. et Zucc. forma *humiliata* (Makino) Kitamura, l. c. 園芸品。

3. リシリオダマキ *Aquilegia flavellata* Sieb. et Zucc. var. *pumila* Kudo forma *konoii* (Miyabe et Tatewaki) Kitamura, l. c. 産地: 利尻島。

マルザキヤマオダマキはヤマオダマキの品種で、花卉が円頭、萼片は暗紫色で、花卉の距が発達しない点以外はヤマオダマキと同じである。

1964年7月12日、キバナノヤマオダマキ *A. buergeriana* f. *flavescens* に距のない形のものを見つけた。長野県下伊那郡浪合村蛇峠山治部坂洞陣ケ畑沢で採集したのだが、花卉、萼片共に淡緑色で、この点キバナノヤマオダマキと異なるところがない。

ただ 1. 花弁は長だ円状卵形または卵状披針形，鋭頭，距が発達しない；2. 花弁は萼片と共に斜開する；3. 萼片は長さ 3 cm，幅 0.8 cm。花弁は長さ 2.6 cm，幅 1 cm ほどで，全体大形である；などの点で異っている。特に花弁が鋭頭である点がヤマオダマキの仲間では特異である。子房は有毛であるからヤマオダマキの仲間に相違ない。これをイナヤマオダマキと新称する。キバナヤマオダマキは母種と共に中部山岳地帯にはかなり生育していて，下伊那地方でもごく普通である。イナヤマオダマキは今のところ蛇峠山北東斜面を流れる陣ヶ畑沢 1400~1500 m の溪側の陽性草地や砂礫地だけが知られているが，現地では案外多かった。（長野県下伊那郡阿智中学校）

*Aquilegia buergeriana* Sieb. et Zucc. f. *ecalcarato-lanceolata* Asano, f. nov.

Flores nutantes, membranacei, viridiflavi, sepalis oblongo-lanceolatis apice acutis vel attenuatis basi rotundatis 2.7-3 cm longis 0.9 cm latis, petalis ca. 2.6 cm longis 0.8-1.0 cm latis oblongo-ovatis apice obtusis vel acutis basi rotundatis, calcaribus rudimentalibus.

Hab. Japonia, Honshu media: Prov. Shinano; Mt. Jatoge, Jingahatazawa in Namiai-mura, Shimoina-gun (K. Asano, no. 3869, Juli 12, 1964, Typus in TI). Growing in sunny and sandy humid herbages along stream, alt. 1400-1500 m.

○ジャカゴトウバナ (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: A new cultivar of *Clinopodium gracile*

戦後まもなくのころ，小石川植物園に変わったトウバナが栽培されていた。種類としてはトウバナであるが，茎は直立して殆んど分枝せず，高さ 3-5 cm となり，茎全体をしわ状の丸味のある葉が密に重なって包んでいて，丁度，サギゴケの園芸品のジャカゴソウと同じ形であるので，ジャカゴトウバナと新称する。ジャカゴソウの栽培はなかなかむずかしいが，これは種子で容易に繁殖し，栽培は楽である。ただ丈が低いので注意してやらないと消滅してしまう。小石川植物園ではその後なくなってしまったが，一部の園芸家の間に保存されている。この植物の出所は明らかでない。広瀬巨海氏の所から出たといわれるが定かでない。（東京大学理学部）

*Clinopodium gracile* (Bentham) O. Kuntze cv. *crispatum* cv. nov.

Caulis erectus, simplex, 3-5 cm elatus. Folia crispata, contorta, 5-7 mm longa, 5-6 mm lata.

Hab. Saginomiya, Tokyo cult. (T. Yamazaki, May 16, 1974).